

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成17年10月12日(木) 授業2
学級 6年4組 男17名女20名 計37名
場所 6年4組教室
授業者 教諭 武田 喜隆

1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう「平和のとりでを築く・自分の考えを発信しよう」

2 単元について

(1) 教材観

第5学年及び第6学年における「C読むこと」の目標は「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことである。目標を達成するために、「イ目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。」「エ書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。」という指導事項がある。これを受けて本単元の目標を「筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えをもつ。」ことと設定した。

本単元は、「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」から構成されている。「平和のとりでを築く」は、原子爆弾によって「傷だらけ」となった物産陳列館が、多くの人々の平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。日本人としてぜひ知っておきたい史実と、それが世界の遺産となった意味についての筆者の考えを丁寧に読み取ることにより、いかに多くの人々が、現在において「平和」を希求しているかが分かり、続く活動への動機を与えることにもつながる教材である。日本が過去に経験した戦争、甚大な被害を受けた原子爆弾のこと、あるいは現に今も戦争で苦しんでいる同世代の子どもたちがいることなどは、ほとんど考えたこともない、という児童も少なからずいる。未来を担う一員である6年生に、これからの社会の在り方は自分たち自身の問題でもあるという視点から「平和」について考えさせるのに適した教材である。さらに、「平和」というテーマにかかわる多様な材料を集め、自分なりの考えをもち、発信していく学習をさせていきたい。様々な情報を集め、それに学ぶだけでなく、それをもとに自分なりの考えを深め、その考えを外部に発信することで表現能力を高めることもねらいとしたい。

(2) 児童観

全体的に学習意欲が高い学級である。しかし、国語に対しては、苦手意識をもっている児童が多い。6年「生き物はつながりの中に」では、文章の構成や表現から要旨をとらえるとともに、筆者の考えについて自分なりの考えをもつという学習をした。「文章全体の構成をつかみ図に表す」という学習では、内容の理解はできているが、意味段落に分けることができないという実態がある。そのため、読むことの学習において、第5学年から家庭学習で全文視写に取り組み、自分なりの読み取りを行い、授業に臨むことができるようにしている。文章の話題や筆者が一番言いたかったことを読み取る力についてはついてきているが、キーワードを見つけたり、筆者の考えにに対する自分の考えを述べたりすることは苦手な児童も多い。

したがって、この単元の学習では、接続語や指示語、キーワードに着目して説明文を読み取る力をつけながら、筆者の考えに対して自分の考えをもつことができる児童を育てたい。

(3) 指導観

「文章を読んで、自分の考えをもち、伝えよう。」という単元の学習のねらいを押さえるために、次のような手立てをとる。

第一次で、全文を読んでおおまかな内容をつかむ。題名の「平和」という言葉に着目させ、戦争や平和に関して知っていることや思っていることをあげさせ、興味を高めるようにしたい。また、初めて知ったことや疑問に思ったことなどを発表させ、学習課題の設定につなげていきたい。

第二次では、文章の内容をとらえて、筆者が読者に考えてもらいたいと願っていることを読み取り、感想をもたせる。読みの課題を明確にし、文章構成をとらえることができるようにし、筆者の伝えたいことを読み確かめるための視点について話し合わせる。

第三次では、「平和」についての自分の考えを発信するために、多様な材料を通じて自分の考えを組み立て、文章を書く。その場合の手立てとして、課題はできるだけ具体的なものにできるように助言し、一人一人が情報を集め、考えをまとめていけるようにする。

第四次では、この単元での学習を振り返り、感想の交流を図りながら学習した意味を実感させ、自分の考えを広げさせたり深めさせたりしたいと考える。

以上のような手立てにより、文章の要旨をとらえ、それに対する自分の考えをもつことができる力を身に付けさせたい。

3 単元の目標と評価規準

	目 標	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしている。	・興味をもって文章を読み、筆者の考えについて自分の考えをもととしている。
書くこと	自分の考えを明確に表現するために、材料を選び直したり、効果的な文章の組み立てを考えたりしている。 事実と意見を区別して書いたり、対立する意見に反論を述べたりしている。	・叙述を丁寧に読み取りながら、根拠を明らかにして、筆者の伝えたいことについて書きまとめている。 ・具体的事例と意見、反対意見とそれに対する反論などを、読み手に分かるように書き分けている。
読むこと	筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかをまとめる。 「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読む。	・視点に基づき、筆者の伝えたいことをふまえ、自分の考えをまとめている。 ・文章構成をしっかりととらえ、具体的事例について正確に読んでいる。
言語事項	・文章にはいろいろな構成があることを知り、適切なものを考える。	・集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の意見が伝わるように組み立てを考えている。

4 単元の指導・評価計画（13時間扱い）

段 階	時 間	目 標	主な学習活動 …学習課題 …主な支援の手立て	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)	具体の評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て
					A、十分満足できると判断する視点	B、おおむね満足できると判断する視点	
とらえる	1 2	文章の内容を大まかにつかみ・学習の見通しをもつことができる。	学習の見通しをもとう。 ・題名から書かれている事柄に興味をもつ。 ・範読を聞く。 ・全文を読んでおおまかな内容をつかむ。 ・感想について話し合い、学習の見通しをもつ。 ビデオや写真等を準備し、提示する。 ・文章全体のおおまかな構成をつかむ。	興味をもって文章を読み、疑問や気づきをもとに初読の感想をノートに書くこととしている。 【関心・意欲・態度】 (観察・ノート)	重要な語句・文章にサインを引くなどしながら、文章の内容をおおまかにつかみ、初読の感想をノートに書いている。	興味をもって文章を読み、疑問や気づきをもとに初読の感想をノートに書いている。	題名や写真を参考にして感想を書くように助言する。
	3	「原爆ドーム」とよばれるようになった理由を読み取ることができる。	広島の人たちは、「原爆ドーム」のことをどのように思っているのだろう。 ・どんな問題が提起されているのか読み取る。 ・課題に対する自分の読みをまとめる。 33ページと35ページの写真を比べさせて考えさせる。	「原爆ドーム」とよばれるようになった理由をまとめている。 【読むこと】 (ノート)	「原爆ドーム」とよばれるようになった理由を世界遺産と関係づけながらまとめている。	「原爆ドーム」とよばれるようになった理由をまとめている。	時を表す言葉や「保存」「世界遺産」という言葉に線を引くように助言する。
ふかめる	4	「原爆ドーム」のたどった歴史と人々の思いを読み取ることができる。	「原爆ドーム」が保存されるようになったわけを考えよう。 ・保存を願う人と取り壊しを願う人、それぞれの思いや少女の日記について話し合う。 原爆ドームのたどった歴史を読み取り、感じたこと、考えたことを交流させる。	「原爆ドーム」がたどった歴史―世界遺産への道のり―について正確に読んでいる。 【読むこと】 (ワークシート・発表)	具体的事例について事実や時間の流れを押さえ、「原爆ドームがたどった歴史」について正確に読んでいる。	「原爆ドーム」がたどった歴史について正確に読んでいる。	板書や友達の発表を参考にできるように助言する。
	5	「原爆ドーム」が選ばれた理由を読み取ることができる。	「原爆ドーム」なぜ世界遺産に選ばれたのだろう。 ・戦争の被害を強調し、規模が小さく歴史も浅い遺	「原爆ドーム」を世界遺産に認めた世界の人々の思いを読んで	「原爆ドーム」を世界遺産に認めた世界の人々の思	「原爆ドーム」を世界遺産に認めた世界の	写真や資料をもとに世界遺産について考え

	きる。	跡であるにもかかわらず、世界遺産として認められたわけを考える。 筆者の伝えたいことをとらえやすくするために、文章構成に着目させる。	いる。 【読むこと】 (ノート)	いを読んで、積極的に発表しようとしている。	人々の思いを読んでい	させたい。
6 本時	二つ目の課題に対する自分の読み書きをまとめる、話し合う。	「平和のとりでを築く」とはどのようなことが自分の考えをもち、話し合う。 ・手がかりとなりそうな箇所にサイドラインを引く。 筆者の伝えたいことをとらえやすくするために、構成に着目させる。	筆者の伝えたいことを正確に読んでいる。 【読むこと】 (ノート)	筆者の伝えたいことを正確に読み、また疑問に思うことも書いている。	筆者の伝えたいことを正確に読んでいる。	友達の発表をもとに平和のとりでについて考えさせたい。
7 チャ	「平和」について自分の考えを発信するために、多様な材料を通して自分の考えを組み立て、文章を書くことができる。	筆者の考えをもとに、平和について考え、話し合う。 ・戦争や平和について考え話し合う。 ・発信する目的と相手、課題、方法を決める。 ・調べることを具体化する。地域の人、広島・長崎の小学生、海外の小学生など、発信する相手を工夫して、意欲を高めたい。	「平和」について自分の課題を持っている。 【書くこと】 (ノート・発表)	「平和のとりでを築く」で読み取ったことをもとに、「平和」について自分の課題を持っている。	「平和」について自分の課題をもっている。	調べていく中で具体化、焦点化していけるようにさせる。
8 9 ひ チャ	要旨を設定し、必要な材料を集めることができる。	仮の要旨を決め、材料を集めよう。 ・考えていることを「仮の要旨」としてまとめ、それに説得力をもたせる材料を集める。 ・それぞれの特徴を生かして、調べる。 ・集めた資料が信頼できる材料かどうかを確かめる。	自分の課題に沿って、インターネットや本・雑誌・新聞などを活用し、必要な材料を集めている。 【関心・意欲・態度】 (ワークシート・ノート)	自分の課題に沿って、インターネットや本・雑誌・新聞などを活用し、要旨に説得力をもたせるために必要な材料を集めている。	自分の課題に沿って、インターネットや本・雑誌・新聞などを活用し、必要な材料を集めている。	友達の発表や前時のノートを参考にさせる。
10 げ チャ	集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の意見が伝わるように組み立てを考えている。	要旨をまとめよう ・集めた材料をもとに「仮の要旨」を「確定した要旨」にまとめ直す。 ・文章の構成を考える。 まとまりごとに見出しを付け、そのつながりを考えさせることによって効果的な組み立てを考えることができるようにする。	文章の構成を考え必要な材料を選んでいく。 【書くこと】 (ワークシート・発表)	文章の構成を考え必要な材料を選び、要旨をまとめ直すことができている。	文章の構成を考え必要な材料を選んでいく。	集めた材料が必要なものか一緒に考える。
11 12 チャ	文集や新聞を発表し、意見を交換することができる。	「平和」について自分の考えを書き、発信しよう。 ・自分の考えを書きまとめる。 ・書きまとめたものを推敲する。 ・推敲したものを発信する。	具体的事例と意見、反対意見とそれに対する反論などを書き分けている。 【書くこと】 (ワークシート・発表)	具体的事例と意見、反対意見とそれに対する反論などを読み手に分かるように書き分けている。	具体的事例と意見、反対意見とそれに対する反論などを書き分けている。	集めた材料が必要なものか一緒に考える。
13 チャ	インターネットを活用するうえで大切なことやルールを理解するとともに、説明文で読み取ったことと、情報の集め方、考えの発信のしかたをまとめ、学習した意味を考えることができる。	この単元での学習を振り返ろう。 ・インターネットと学習を読み内容を確認する。 ・「平和」についての文章を読む。 必要に応じて、お世話になった方々へのお礼状も書くように助言したい。	単元の学習を振り返り、達成感や満足感を感じている。【関心・意欲・態度】 (発表)	単元の学習を振り返り、達成感や満足感を感じたり、学習した意味を見い出したりしている。	単元の学習を振り返り、達成感や満足感を感じている。	インターネットの学習を読み、みんなと一緒に確認できる。

5 本時の学習指導 (6 / 1 3) 【モデル学習】

(1) 目標

根拠を明らかにして、筆者の伝えたいことについてまとめることができる。

(2) 本時の指導にあたって

本時は、筆者の伝えたいことを読み確かめるために視点について話し合い、その視点に沿って書き込みをし筆者の伝えたいことについて読み取りをまとめる学習をする。

単元の第一次で「平和」や「戦争」という言葉や題名とかかわりのある言葉を、筆者の考えを読み取るための大切な言葉として押さえ、知っていることを全体で発表し合っている。

本時においては、「戦争は人の心の中で生まれる」「心の中に平和のとりでを築く」という叙述の意味するところをまず押さえたい。さらに、「原爆ドーム」が「平和のとりでを築くための世界の遺産」であるということの意味を考えさせたい。書いてある語句に着目して読むことを読みの視点とし、課題解決につなげたい。

(3) 展開

段階	学習内容・学習活動	支援の手立てと評価の観点	準備・資料								
とらえる 5分	1 学習課題を確認する。 「平和のとりでを築く」とはどのようなことか自分の考えをもち、話し合おう。	・ 前時の学習を想起し、学習課題の確認につなげていく。									
たしかめる 20分	2 課題解決のための見通しをもち、本時の学習範囲の確認をする。 ・ 「とりで」の意味を確かめる。 3 自分の力で学習課題の解決を行う。 ・ 平和のとりでを築かなければならないのはなぜか。 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」 ・ どういうことなのか。 ・ だれのことをいっているのか。 4 読み確かめるための視点に沿って書き込みをし、筆者の伝えたいことについて書きまとめる。 【評価基準 B の例】 戦争を二度としてはいけないし、核兵器を使ってはいけない。 ・ 学習したことをふまえて、感想を書く。	・ 読みの視点は、筆者の伝えたいことが書かれてあるところに注意して読むことを確認する。 ・ 形式段落 を指名音読をさせる。 ・ 段落を視写する。 ・ 視写文に書き込みをしながら、筆者の伝えたいことを読み確かめるための視点をもつことができるようにさせる。 【評価基準】(読むこと) 筆者の伝えたいことを正確に読んでいる。(ノート)	・ 写真								
合計 35分		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">具体の評価基準</th> <th rowspan="2">努力を要すると判断された児童への具体的な手立て</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筆者の伝えたいことを正確に読み疑問に思うことも書いている。</td> <td>筆者の伝えたいことを叙述を基にして読んでいる。</td> <td>友達の発表をもとに平和のとりでについて考えさせたい。</td> </tr> </tbody> </table>	具体の評価基準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て	A	B	筆者の伝えたいことを正確に読み疑問に思うことも書いている。	筆者の伝えたいことを叙述を基にして読んでいる。	友達の発表をもとに平和のとりでについて考えさせたい。	
具体の評価基準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て									
A	B										
筆者の伝えたいことを正確に読み疑問に思うことも書いている。	筆者の伝えたいことを叙述を基にして読んでいる。	友達の発表をもとに平和のとりでについて考えさせたい。									

まとめ 5分	<p>5 本時の学習範囲についてまとめの音読をする。</p> <p>6 本時の学習について自己評価を行う。</p>	<p>・ 段落を全員で音読させ、本時の学習を振り返らせたい。</p>	<p>・ 自己評価カード</p>
-----------	---	------------------------------------	------------------

(4) 板書計画

平和のとりでを築く

大牟田 稔

「平和のとりでを築く」とはどのようなことが自分の考えをもち、話し合おう。

とりで

国連のユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」と記されている。

筆者の伝えたいこと

6 教材分析表

要旨	原爆ドームは、後世にまで、それを見る世界中の人々の心に、核兵器の使用禁止、さらには戦争を許さず、平和を守っていく強い意志を築くための世界の遺産なのである。												
意味段落	I	II						III			IV		
形式段落	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
小見出し	原爆ドームに対する筆者の思い	原爆ドームの造り	原爆ドームと広島市民	原子爆弾投下	原子爆弾投下直後の原爆ドーム	保存か取り壊しか	少女の日記	補強工事	世界遺産に	世界遺産とは	世界遺産候補	痛ましい原爆ドームの語っていること	国連ユネスコ憲章と原爆ドーム
接続語			また					その後	そして		それはしかし		
要点	原爆ドームがたどってきた年月は、わたしたちの父母や祖父母たちが生きてきた時代、社会が激しく変わっていった時代と重なる。	原爆ドームは元々は、物産陳列館として1915年に完成した。小さいながら、ひときわ目立つ建物だった。	原爆ドームは広島を取り巻く時代の流れをじっと見守ってきたので、多くの市民に親しまれていた。	1945年広島市に原子爆弾が投下され、たくさんの人が死んだ。	建物は、ほぼ真上からの爆風を受けたため、全焼はしたものの、れんがと鉄骨の一部は残った。	「原爆がもたらしたむごたらしいありさまを思い出すので、一刻も早く取りこわしてほしい。」	あの痛々しい産業奨励館だけが、いつまでも、おそるべき原爆のことを後世にうたえかけてくれるだろう。という日記により永久保存に立ち上がった。	全国から保存を願う手紙や寄付が次々と広島市に届けられた。	日本がユネスコの世界遺産条約に加盟した直後から、広島では、原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まった。	世界遺産は、人間の歴史に大きな役割を果たした文化遺産と、地球上にある貴重な自然遺産を、未来へ向けて大切に守っていくために調査・指定していく制度である。	原爆ドームが、戦争の被害を強調する遺跡であること、そして、規模が小さい上、歴史も浅い遺跡であることから、筆者は、世界遺産として認められるか心配であった。	原爆ドームは、核兵器は使ってはいけない、むしろ不必要だと、世界の人々に警告する記念碑である。	戦争は、人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければ成らない。
表現の工夫	自分の思い「～思わずにはいられなかった。」	「～だったという。」	この～この～	それは	たちまち	市民の声「」	だった。～だろう。ー			～である。～いる。	それはちよびり	いや、	なのだ。
重要語句	原子爆弾 原爆ドーム 平和 ユネスコ 世界遺産	原爆ドーム 物産陳列館 ひときわ	取り巻く 親しまれていた	原子爆弾 熱線 爆風 放射線 生命	爆心地 たちまち 支柱 ドーム 特徴	保存 保存反対 議論	急性白血病 被爆 永久保存	補強工事 寄付	世界遺産条約	文化遺産 自然遺産 保護	審査 不安 遺跡	痛ましい 無言 核兵器 警告 記念碑	国連ユネスコ憲章 平和のとりで